

## 第89回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成22年3月9日（火）17：10～17：34

2. 場所 総理官邸4階大会議室

## 3. 出席者

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	川端 達夫	科学技術政策担当大臣（代理 古川 元久 副大臣）
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	川端 達夫	文部科学大臣（代理 中川 正春 副大臣）
同	相澤 益男	常勤（元東京工業大学学長）
同	本庶 佑	常勤（京都大学客員教授）
同	奥村 直樹	常勤（元新日本製鐵（株）代表取締役副社長、技術開発本部長）
同	白石 隆	常勤（元政策研究大学院大学教授・副学長）
同	今榮東洋子	非常勤（名古屋大学名誉教授）
同	青木 玲子	非常勤（一橋大学経済研究所教授）
同	中鉢 良治	非常勤（ソニー株式会社取締役代表執行役副会長）
同	金澤 一郎	非常勤（日本学術会議会長）
臨時議員	岡田 克也	外務大臣（代理 武正 公一 副大臣）
同	赤松 広隆	農林水産大臣（代理 郡司 彰 副大臣）
同	仙谷 由人	国家戦略担当大臣（代理 古川 元久 副大臣）
	大串 博志	財務大臣政務官

## 4. 議題

- (1) 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（決定、意見具申）
- (2) 科学・技術重要施策アクション・プラン等の策定に向けた科学・技術政策上の当面の重要課題について（意見交換）
- (3) 科学・技術外交タスクフォースにおける取りまとめ（報告）

## 5. 配布資料

- 資料 1 - 1 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（案）
- 資料 1 - 2 参考 最先端研究開発支援プログラムについて
- 資料 1 - 3 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（案）参考資料
- 資料 2 - 1 科学・技術政策上の当面の重要課題（概要）
- 資料 2 - 2 科学・技術政策上の当面の重要課題
- 資料 2 - 3 「科学・技術政策上の当面の重要課題」についてのコメント
- 資料 2 - 4 科学・技術政策上の当面の重要課題等、平成23年度科学・技術関係予算編成に向けた検討に係る意見等
- 資料 3 - 1 科学・技術外交戦略タスクフォース報告書（概要）
- 資料 3 - 2 科学・技術外交戦略タスクフォース報告書
- 資料 4 第88回総合科学技術会議議事録（案）

## 6. 議事

### 【古川科学技術政策担当副大臣】

それでは、ただいまより総合科学技術会議を開会いたします。

今回は川端大臣が所用によりご出席がおくれる見込みですので、私が代理を務めさせていただきます。

また、本日総務大臣は急用のため欠席となりました。さらに、外務副大臣、農林水産副大臣、財務大臣政務官にも大臣の代理としてご出席をいただいております。

議事に先立ち、私から1点ご報告がございます。前回ご議論いただきました「最先端・次世代研究開発支援プログラム」におきまして、独立行政法人に公募選定を行わせることについて官房長官及び仙谷大臣よりご意見があり、議長と川端大臣に取り扱いを一任いただいております。その後、関係閣僚に川端大臣や津村政務官、有識者議員から公募・選定は今回1回限りであること、第2に、独立行政法人の見直しによって日本学術振興会のあり方が見直される場合には、その結果を踏まえて実施体制も見直すことをご説明し、ご理解をいただきましたので、運用基本方針については原案のとおりとさせていただきます。

以上、ご報告でございます。

○最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（決定、意見具申）

【古川科学技術政策担当副大臣】

それでは、議題1に入ります。

本議案につきましては、相澤議員より説明していただき、その後決定を行います。

【相澤議員】

それでは、資料1-1、それから参考の資料として1-2と3をごらんください。

30人の中心研究者及び各研究課題は既に昨年9月4日の総合科学技術会議で決定済みでございます。しかしながら、研究開発費については適切な規模となるよう今後調整することになっておりました。その後の補正予算見直しによりまして、基金が2,700億円から1,500億円となり、30課題についてはそのうち1,000億円が充てられることになりました。その際、研究開発経費の調整を含め、30課題にかかわるプログラムの具体的な運用は内閣府政務三役と有識者議員が行うということに決定しておりました。

これを受けまして、中心研究者の専念義務解除、帰国義務緩和、研究支援担当機関の原則公募から中心研究者の指定による決定を原則とするよう変更いたしました。

さらに、間接経費比率の30%を上限20%ということに変更したところでございます。

このような変更のもとに、新たに中心研究者に50億円を上限として研究計画の見直しを行ってもらったところでございます。

30人の中心研究者から再提出されました50億円を上限とする研究計画について、外部専門家による精査を参考にいたしまして有識者議員が中心となって直接経費及び間接経費の双方にわたる経費の査定を行ったところでございます。2,700億円を前提として中心研究者が考えていた当初の計画から1,000億円の全体予算の変更を受けて、さらに50億円を上限で見直した計画を全体が1,000億円におさまるように精査した結果でございます。そのため、大変厳しい査定となりました。

しかしながら、我々としては当初の目標達成に大きな支障はないというぎりぎりのところでの金額を提示できたと判断いたしております。

このたび、金額のほか、必要事項につきまして資料1-1にございます別紙のと通りの結論を内閣府政務三役及び有識者議員の間で得たために、本日この会議で決定していただいた上で、

文部科学大臣へ意見具申をお願いしたい次第でございます。

以上でございます。

**【古川科学技術政策担当副大臣】**

ありがとうございます。

何かご意見ございますでしょうか。

なければ、本議案を決定してよろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは、本案を決定することとし、文部科学大臣宛、意見具申することといたします。

○科学・技術重要施策アクション・プラン等の策定に向けた科学・技術政策上の当面の重要課題について（意見交換）

○科学・技術外交戦略タスクフォースにおける取りまとめ（報告）

**【古川科学技術政策担当副大臣】**

次の議題2と議題3は続けてご説明をいただき、一括して意見交換を行います。

まず、科学・技術政策上の当面の重要課題は、科学・技術予算編成の全く新しい取組でありますアクション・プランの策定に向けた最初の取組となるものですので、相澤議員に報告していただき、その後意見交換をお願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

**【相澤議員】**

資料2-1と資料2-2をごらんいただきたいと思います。重要課題の本文は2-2でございます。説明は資料2-1で行わせていただきます。

ただいまご紹介がございましたように、新しい科学・技術予算編成プロセスへの取組がこのたび行われることになりました。その特徴は、鳩山政権の新たな取組として記してございます資源配分方針の基本指針を策定すること。その策定に重要な資料となるアクション・プランを策定することでございます。これら資源配分方針の基本方針、アクション・プランの策定に重要な資料となるものが当面の重要課題でございまして、本日提示させていただくものでございます。

このような新しい取組によりまして、予算編成プロセスの重点化、効率化、透明化を図って、

課題解決に有効な質の高い科学・技術予算の実現を図るところでございます。

次のページをごらんいただきたいと思います。我が国大変厳しい状況にさらされております。この危機を好機に変えるという大きな目標を持ちまして、科学・技術イノベーション政策により危機を成長へのチャンスと転換するところでございます。

このたび、この内容を二つの柱でまとめてございます。

一つは、新成長戦略を踏まえ、経済、社会に大きな変化をもたらす二つのイノベーションを強力にするということで、我が国の基本的な柱としてイノベーション推進を図るものでございます。

そのイノベーションの内容は二つに絞っております。グリーン・イノベーションの推進、ライフ・イノベーションの推進でございます。グリーン・イノベーションの推進には、低炭素社会の実現と資源・エネルギーの確保、グリーン社会インフラの強化、環境先進都市化、農林水産分野の再生等が含まれてまいります。ライフ・イノベーションの推進においては、ゲノム情報等に基づく予防医学の推進等による健康社会の実現、革新的診断・治療法の開発等による安全性・信頼性の向上、高齢者・障がい者のQOL向上と子どもの成育環境の整備等が入っております。

もう一つの大きな柱は、新たな知の創出・蓄積や科学・技術の基礎体力強化に資する課題に継続的に取り組むことでございます。これは新成長戦略におきましては科学・技術のプラットフォームという位置づけになっているところでございます。基礎研究の強化、競争的環境の改善、情報通信技術等の革新的・先導的な基盤技術の戦略的展開、人材育成強化、国際展開、研究開発システム改革等を柱としております。

以上のような推進に基づきまして、新たな科学・技術予算編成の第一歩といたしたいと考えております。こういうことを通して科学・技術で世界をリードし、世界に貢献する日本の構築を行う所存でございます。

以上でございます。

#### 【古川科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

引き続きまして、議題3、科学・技術外交戦略タスクフォースのとりまとめを白石議員よりご報告していただきます。これは第4期科学技術基本計画及び新成長戦略をにらんで、科学・技術国際戦略を検討したものであります。今後予定されているAPECや東アジアサミット等

に向け、科学・技術と外交の連携が一層重要になると考えますので、この機会に意見交換をしたいと思います。

白石議員、お願いいたします。

#### 【白石議員】

どうもありがとうございます。これに関連する資料は、資料3-1とそれから3-2、これは報告書でございますが、きょうはこの報告書の概要、3-1のほうで説明させていただきます。

まず1枚めくっていただきまして、ページ2というところですが、基本的な報告書の発想は、2020年における日本と世界の研究開発というのがおよそどういうふうになっているだろうかということを考えるところから、逆に現在の戦略を考えようということでございます。大きく4点ございます。

一つは、少子・高齢化によって日本のプレゼンスは低下する。若年層の人口は2020年までに4分の3に減りますし、それから仮に政府と民間の科学・技術関係の研究開発投資がGDPの4%にふえても、2020年には世界の研究開発投資に占める日本のシェアは現在の18%から16%に落ちてくると。

それから2番目に、アジアにおきまして、中国、韓国、シンガポール等は急速に力をつけておりまして、もう発展途上国で日本が協力するというそういう関係ではないし、こういうことはますます重要になってきて、アジアが有望な成長センターであることは間違いないけれども、特にこういう中国、韓国等に対しては競争と協調という形でこれからもう少しきちっと考えていかなければいけない。

それから3番目に、安全保障関連の研究開発のコストが急速に上がっておりまして、2020年になりますと恐らくコスト面から考えただけでも安全保障分野では共同研究というのが大きい、アメリカも含めてですね、共同研究というのが世界の流れになるだろう。

それから4番目に、安全保障関係だけではなくて、最先端の大規模研究施設のコストというのもこれも上がっておりまして、こういうところでも国際的な協力ということのをこれからもっと考えていかなきゃいけない。

そういう中で、3ページにまいります。3ページにまいります。3つの基本方針として、まず第一に、海外の優れた研究資源を取り込むことによって日本の研究開発システムを強化する。つまり、内と外を区別しまして内の中でやるということではなくて、むしろ海外、

日本にはない海外の研究開発資源というのはどんどん取り込んでいくというのが、これが一番重要なポイントでございます。

それから2番目に、その一つの可能性として、東アジア共同体構築において科学・技術分野において、先行的に日本がイニシアティブをとっていくということはあるのではないかと。これが2番目。

それから3番目に、そのための政府の体制をやはり強化していく必要があるだろう。

ということで、五つの課題というのをここでは挙げておりますが、そのうち特に私として強調したい点は、まず第一に、世界の活力と一体となった研究開発システムの構築ということでございまして。ここでは海外の人材のリクルートメントだとか、あるいは日本でできない研究は外でやればいいと、そういう研究開発の仕組みをつくるのが重要であろう。これが第1点。

それから2番目に、アジア共通の課題の解決ということについては、特にパイロット・プロジェクトの形で具体的なプロジェクトを進めていくのがいいのではないかと。

それから第3番目に、研究協力にとどまらないイノベーション協力ということを考えますと、やはり国際標準化の推進というのは非常に重要になっておりますが、ご承知のとおり、例えば環境エネルギー分野においてはEUが法的に標準化ということでそのリーダーシップをとろうとし、アメリカはむしろデファクトの標準化をやろうとすると。そういう中で日本としてもEUあるいはアメリカとどう連携しながら、この国際標準化の分野において日本として決して損にならないようなそういう標準化を進めていくのかということが重要になるだろうということでございます。

具体的なテーマとしましては、5ページにまいります、一つは東アジア共同体構築ということと関連しまして、アジア・サイエンス・テクノロジー・エリア構想というのを報告書では提案しておりますが、これはアジア諸国の優秀な頭脳を日本に取り込むとともに、日本の研究機関、研究資金も積極的に海外展開を図って、アジアの活力と一体となって研究開発力というのを強化していく。なかなかこうは申しまして協力のカギをつくるのは時間がかかる話でございまして、これについては例えばエリアをつくったときのようにトラクトゥーでまずは検討していくというのがあると思いますが、同時にエリアの経験から申しますと、具体的なテーマをやはり同時に、例えばグリーン・イノベーションだとかライフ・イノベーションのところで取りかかっていくというのがいいのではないかと。ということでございます。

それからもう一つは、アフリカにつきましても、日本のODAの成果を活用してグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションに関する協力を促進していくということが重要では

ないか、こういう内容のものでございます。

**【川端議員】**

大変ありがとうございました。

予算委員会で遅参いたしましたして恐縮ですが、司会を交代させていただきます。

それでは、議題2及び議題3について意見交換をお願いしたいんですけども。議題2に関して、環境大臣及び総務大臣から文書によるご意見をいただいております。資料2-3として配布いたしておりますので、ご照覧をいただきたいと思っております。

それぞれご意見伺いたいのですが、総理の時間も日程で許されている時間があと3分ほどでございますので、恐縮ですが、ご意見のある方。

どうぞ。

**【郡司農林水産副大臣】**

手短かに申し上げたいと思っております。農林水産の関係でございますけれども、重要課題の中でグリーン・イノベーション等にも記載をいただきましたし、今の説明にも登場しているわけでございますけれども。前回配られましたアクション・プランの例の中にこの農林水産に関するものがちょっと欠落をしていたのではないかなというふうに思っております。まだ案の段階でございますので、成案を得るときにはぜひとも加えていただいて、しっかりやらせていただきたいなということと。

このライフ・イノベーションの中には特にそのような記載はございませんけれども、農林漁業によって派生をします資源、あるいはまた農山漁村そのものが持つところの関係というものも予防医学その他を含めて関係してくるものがあると思いますので、ご検討いただければというふうに思っております。

**【川端議員】**

ありがとうございます。

ほかにもございますか。

**【直嶋議員】**

今の議題2のグリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションを推進するという考え

方は結構だと思います。産学官が結集して研究開発を進めるということですが、その成果を迅速に実用化、普及するためにも、実証であるとか、先ほど国際戦略の中でございましたが、標準化、あるいは制度改革、こういうところにも重点を置くことが必要だと思っております。

経産省としてもこの具体化の際にそういう観点も含めて積極的に検討に加わってまいりたいというふうに思っております。

【川端議員】

武正外務副大臣。

【武正外務副大臣】

科学・技術は、国防、経済あるいは産業等ハードパワーの源泉であるのみならず、科学・技術に対する国際社会の関心、期待の高さにかんがみ、ソフトパワーの源泉というふうに位置づけたいと思います。そうした認識の中で、外交に関しては、科学のための外交、日本の強みである科学・技術を外交のツールとしての活用、科学に基づいた外交、日本の科学・技術の国際社会への発信など、外務省でも科学・技術外交の推進に取り組んできております。現在、外務省及び大使館が中心となって、東京及び海外主要都市において関係府省独法と連携して科学・技術外交ネットワークを構築しております。今後とも科学・技術と外交の協働、科学コミュニティ（科学者）と外交コミュニティ（外交官）との協働を呼びかけたいと存じます。

【川端議員】

ありがとうございました。

予定の時間がほぼきたんですが、どうしてもという方ございますか。

それでは、ありがとうございました。

本日の議論を踏まえて、アクション・プランを作成してまいりたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、ここでプレスの入室をお願いいたします。

（報道関係者入室）

【川端議員】

それでは、最後に、鳩山総理からご発言をお願いいたします。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

総合科学技術会議にお集まりをいただきました議員の先生方に心から感謝を申し上げます。ここには「議員の皆様方には大変有意義な議論を展開していただいて」と書いてあるんですけども、時間が十分ございませんで、必ずしも有意義な意見交換にならなかったかもしれませんが、私自身の時間の関係でご迷惑をおかけしたことをおわび申し上げたいと思います。

文部科学大臣、川端大臣には、今、お運びをいただいたわけでありますが、まず、最先端研究開発支援プログラム、きょう皆様方にお認めをいただいたわけでございます。大変予算というものが限られた中で充実したプログラムということに相なったかと思っておりますので、このプログラムの実施に向けて全力を尽くしていただきたいと、心からそのことを大臣にもお願いしたいと思っております。

また、アクション・プランという新しい予算の枠組み構築に向けて「科学・技術政策上の当面の重要課題」をおつくりいただいた、これは大変画期的なことだと思っております。今までは各省の予算要求があつてから総合科学技術会議が対応するというのでこの順序が基本的には逆になっていた部分が、それを総合科学技術会議のほうで各省で取り組むべきアクション・プランという枠組みをお決めいただいたと、そしてそれはライフ・イノベーションとグリーン・イノベーション、これを核にしたものであると理解しております。イノベーションというものをこれからいかに日本のある意味での成長戦略の柱に位置づけていくか、その中で科学・技術というものが大きな役割を演じるべきだということでありましょう。

それに基づいた予算をこれから編成していただくということであるわけですが、ぜひ皆様方のお力をいただいて、縦割の弊害みたいなものがここで出てこないように注意をしていただきたい、そのこともお願い申し上げたいと思います。

また、駆け足で白石議員のほうから科学・技術の外交の重要性というお話をいただきました。私はこれは決して楽観はしておりません。アジア・サイエンス・テクノロジー・エリア構想というもの、これをぜひ絵に書いた餅にしないでいただいて、本当の本物にしていかなければならないと思っております。

もう既にシンガポールなどは相当アジアの頭脳、アジアだけではなくて世界の頭脳をシンガポールに集めるための算段というものを積極的に行っています。必ずしも日本として今までこういった意味での外交戦略というものがあつたかどうか、必ずしも十分ではなかったような気

がしております。

その意味で、今回こういったアジア・サイエンス・テクノロジー・エリア構想というものを打ち上げた以上、これを本物にしていただいて、日本が科学・技術の粋を集めた世界の中心になるんだ、その意気込みというものを実現をさせていただきたい、心からそのことも願いたいと思います。

特に環境の分野などは結構熾烈な争いが、もう既にEUとアメリカ、日本がどっちにつくかみたいな話になってきていると思っております、日本独自の戦略というものをつくり上げていく必要があるかと思っております。

ぜひその意味でも総合科学技術会議のお力をいただいて、日本こそこの科学・技術で今日まで成長を遂げてきた、これからも成長を遂げていく礎はここだ、その意気込みを信じていただいて発揮をしていただきたい、そのように思っております。

私から余り長い話をしてはいけないと思っておりますが。改めて、総合科学技術会議にお運びをいただいた議員の皆さん方に積極的にかかわってくださっておりますことに感謝を申し上げながら、これからもさらに積極的にかかわってご活躍あらんことを心から祈念をいたします。

どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

(報道関係者退室)

**【川端議員】**

ありがとうございました。

以上で会議を終了いたします。

なお、前回の議事録と本日の資料は公開いたしますので、ご承知おきください。

ありがとうございました。